不屈

No. 561

編集発行人　田中幹夫
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034
東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター全労連会館内
電話 03-5842-6461
FAX 03-5842-6462
振替 00110-6-97793
定価　50円

同盟青森県本部4月21日で結成31周年

社会変革を同盟と共に　皆さんの力が必要です！

同盟青森県本部は、一九九〇年四月二十一日二十八名で結成大会を開催しました。会長は五味廸子さん。全国三十九番目の結成でした。昨年（二〇二〇年）四月に結成三〇周年行事を三・一五、四・一六大弾圧記念集会と合わせて開催し、会員の皆さんとお祝いする予定で準備を進めていましたが、コロナ禍により断念せざるを得ないこととなりました。コロナ禍が落ち着き次第、今年改めて開催を検討します。

この紙面で三十一年間の歩みを振り返ります。

(1) 各支部と県女性委員会（現県女性部）の結成年

一九九六年
弘前支部結成
（支部長　木村公麿氏）

一九九六年
東青支部結成
（支部長　中村勝巳氏）

二〇〇二年
下北支部結成
（支部長　小笠原美徳氏）

二〇〇九年
上十三支部結成
（支部長　相馬和孝氏）

二〇一一年
西北支部結成
（支部長　工藤善司氏）

二〇一七年
三八支部結成
（支部長　内田弘志氏）

一九九五年
県女性委員会結成
（会長　高橋千鶴子氏）

(2) 同盟会員数

一九九〇年　三〇名

※2ページ2段へ続く

青森県版
2021年3月15日発行
第　345　号
〒030-0821
青森市勝田二丁目7−3
山脇ビル
TEL 017-721-9018
FAX 017-721-9019
青森県本部

山毛欅（ぶな）

コロナに負けずに新しい世界を作ろう。

◇昨年、今年とコロナが世界中で蔓延している。ウイルスも地球上で生き延びたいので必死なのであろう。ウイルスに同情している場合ではない◇さてそんな中、五輪、パラリンピック組織委員会森喜朗会長が、「女性はわきまえてないから、発言が長い」などと女性蔑視、差別の発言を行い世界中から非難されています◇今、世界は「人種差別、性差別」など様々な差別とそれを乗り越え、世の中の不条理に対する熱い怒りが大きく沸騰しています◇森会長の言動は支配者の驕ったものであり謙虚に言われた側の立場にたって再考を促すものである。これを機に、各部署の責任ある位置にいるものは、世の中をよくするためには何が必要かをよく考えて言動、行動を望みたい。

（安田）

▼二月九日に九十三才となった斉藤ナミさんに手記を書いていただきました。

国賠同盟に入会して

斉藤 ナミ

私は昭和・平成・令和三年を迎えて今年九十三才になりました。

戦争中は学校の勉強もきちんと教わることも出来ず、食べる物もない中で暮らしてきました。青森空襲では幸い命が助かって健康で今日を迎えることが出来ました。

戦後「国・県・市」で実施していた「失業対策事業」で三十八年間日雇いとして七十才まで働きました。そして「失業と貧乏と戦争反対」のスローガンで「全日本自由労働組合」の執行部の一人として、みんなの生活を守るため運動をしてきました。

七十才で仕事が終った時、高杉さとさん、中嶋丘子さんから声をかけていただき国賠同盟に入会しました。女性委員会の会議に参加した日は丁度「ひな祭り」の日でした。会議が終ったあとお茶とお菓子でみんなと楽しく語ったあの時を思い出しています。

入会してから何かお手伝いすることないかと尋ねましたら「月一回不屈発送」の仕事があるというので手伝うことになりました。小野俊子さんと二人で「不屈」の仕分け・発送・会員さん宅へ配るなど手伝ってこの仕事は二十年以上現在も続けております。

● 2021年２月９日、東青支部理事会の写真。
この日は斉藤ナミさんの93才の誕生日でした。

昨年東青支部の総会で新しく理事さんが四名ふえましたので今は細川さんを中心にして五名の人達で毎月「不屈」の仕分けをして皆さんへ届けております。

「新型コロナウイルス」で大事な活動も中止になって充分に出来ませんが会員拡大や署名などすすめて「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」と皆さんと一緒に頑張っていきます。

※

一九九七年　一三〇名
二〇〇六年　二〇三名
二〇一二年　三二〇名
二〇一八年　四一八名
現　在　四五〇名
※会員数は順調に増えています。

(3) 国会請願署名数

一九九一年　一五六七筆
一九九六年　二四三一筆
一九九七年　三〇九三筆
二〇〇〇年　四八四五筆
二〇〇六年　五五六四筆
二〇〇九年　六八二三筆
二〇一一年　七四七三筆
（最高）

※この十年間は減少傾向が続き二〇一九年度は二六九五筆となりました。会員数は増えていますが署名数は後退。署名活動の重要性をあらためて学習することを含め運動の再構築が求められています。

(4) 県本部の主な行事（通常）

▽三・一五、四・一六　大弾圧記念集会　（三～四月）
▽永島暢子を偲ぶ会・墓前祭　（四月十二日）
▽相沢良を語り継ぐつどい　（五月十五日頃）
▽国会請願行動　（五月）
▽八・十五終戦記念行動　（八月十五日）
など

※同盟は「未来」を創るために「過去」に学び「現在」を変革していく組織です。会員の皆さんの自主的、積極的な運動参加（もちろんできる範囲で結構です）によって同盟運動は成り立ちます。

ご協力お願いします。

エッセイ

私が出合った子どもたち……㉘

『涼子（仮名）』

一戸義規

涼子は、私の学級でも学年の生徒でもなく、週一回の美術の時間でしか顔を合わせませんでした。美術の時間やその前後の休み時間などでも、私の所に寄ってきて「おしゃべり」をしたがる生徒でもありませんでした。

涼子は美術の時間は優等生でした。おしゃべりもし、発想豊かな個性的は作品をたくさん創りました。私の涼子へのイメージは、「正直で明るく、元気で表現力のある生徒……」「何の心配もいらない生徒」でした。

涼子が三年の卒業式の日に、私に封書を持ってきました。

中身は「三年間お世話になりました。美術の時間はとても楽しかったです。一戸先生は私の大事なおじいちゃんです。これからも元気で長生きしてください……」というお礼と励ましの手紙でした。

美術の時間に、おしゃべりしたり、アバロをきいたりして卒業していく生徒はたくさんいますが、これらの生徒のほとんどは、「美術室」で、自由もの言える「言葉のゴミ箱」のよう過ごしています。

そして、その時間を忘れたかのように、手を振って卒業して行きます。私はそれでOKでした。

涼子は、地元の高校に進学しました。受験に追い立てないのんびりした学校なので涼子に合っているのかと思っていました。

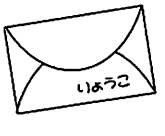
涼子が、高校一年の一月、当然中学校に現れました。教頭には前日に連絡があったようですが、他の職員は知りませんでした。私は涼子と廊下でばったり会いました。

私が「あーら、久しぶり、今日はどうしたの？」と聞くと、涼子は淡々と「高校を辞めることにした。三年間勉強しても何の役にも立ちそうにない。やめて調理学校に行くことにした。今日は中学校の卒業証明をもらいに来たんだよ」と私に伝えました。

私は一瞬言葉を失いましたが、「どこの調理学校？」と聞くと、涼子は「〇〇……」と言います。私は「そうか、がんばれそうだな……」と言ってそこで分かれて美術の授業に向かいました。

数年後、涼子の母親に会う機会があり、涼子は「老健施設の調理員」として元気に働いているということがわかりました。

中学校の教師をしていると、卒業式に時々手紙やメッセージを残していく生徒がいます。その多くは中学校時代には目立たない静かな生徒です。きっと周りの生徒が自己表現しているのを見て「じっと」していたのでしょう。

この子と、もっと話をすればよかったと反省します。

絵手紙　吉田祥子（東青支部）